

瑞 議 発 第 2 7 3 号

平成30年3月27日

瑞穂町長 杉浦 裕之 様

瑞穂町議会副議長 下野 義子

総務産業建設委員長 村上 嘉男

「平成29年度まちなか会議」実施に伴う提言

日頃、議会の活動及び運営に対し、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、総務産業建設委員会では、昨年11月25日に「まちなか会議」を開催しました。本年度のテーマは、「みずほの防災・減災を考える」とした上で、住民の方々とグループ討議を行いました。その後、まちなか会議で頂いた意見等を踏まえ、委員会にて協議を重ねて参りました。

協議の結果、総務産業建設委員会として、別紙のとおり提言します。

なお、まちなか会議において住民から出された意見等の抜粋を添付します。

提 言 書

2011年3月11日の東日本大震災は、2万人近くの方々の命が奪われ、数多くの街々に甚大な被害がありました。瑞穂町でも2016年8月の台風9号の豪雨により、土砂崩れのほか、道路冠水は町内各地で発生し、床上浸水5棟、床下浸水15棟の多くの被害となりました。

町が消防団等、関係団体とも連携し、迅速な行動をとると共に災害時の記録を残し、次につながる対応をされたことは大いに評価すると共に、担当部署の努力に敬意を表します。

しかしながら、まちなか会議では、まだまだ地域ごとに抱えている課題は多く、課題解決に向けた取組、より良い環境整備を望む声が数多く寄せられました。

当委員会では、これらの意見を踏まえ協議を重ねた結果、以下のとおり提言します。

提 言

一、 広域避難場所の見直しについて

広域避難所の第五小学校・瑞穂中学校は土砂災害警戒区域内であり、地震災害と風水害で、避難所を変更するという運営は、対象地区の住民が混乱を招き避難が遅れることが考えられる。また人口分布の変化等も勘案し、この地域における、広域避難所の見直しを講じられたい。

一、 防災広報の充実について

災害が発生した場合、状況や情報を知ることは身の安全を図る上で欠かせない。しかしながら、防災無線が聞きづらい地域、メール情報をつかめない住民は多い。きめ細やかで且つ迅速に情報提供できる更なる取組を講じられたい。

また、災害時には自助、共助が必須であることから、普段からの備えが大切である。そのために、ハザードマップの配布のほかにも、災害用品のリストや揃え方などの方法などについても情報提供に努めることを講じられたい。

その他参考意見の抜粋

防災無線関係

- ・風向きにより聞きづらい地区がある。防災無線の増設で改善するのではないか。
- ・情報の伝え方として展示や音声などさまざまな伝え方があるのではないか。

防災訓練関係

- ・参加者が毎年同じである。
- ・トイレのない場所での訓練はいかかなものか。
- ・マンネリといわれるが訓練をしていないことはいざという時、出来ないで当たり前のできるぐらいに訓練をすることが大事である。
- ・避難所がどこにあるのか意外と認識されていない。
- ・参加者が毎年減ってきている。マンネリ化が原因と思うので以前防災ヘリが来たりしたように数年に一度でも新しいことがあるとよい。

支援を必要とする人の情報について

- ・個人情報保護の事もあると思うが、町内会に入っていない人の情報が入らない。
- ・災害時には人と人のつながりが一番大切である。
- ・日頃から声を掛け合うことが大事で、いざという時にたすけあえる顔の見える関係が大事である。

備蓄品関係

- ・備蓄品はどこに何があるかわからない。資機材など整っているのか。 担架なども必要ではないか。
- ・土嚢は冠水地域が分かっているのですぐに使えるように地域ごとに用意しておくのが良い。 AED も同じに地区会館においておくのがよい。

避難所について

- ・避難所が遠い。
- ・目の前に避難場所があるのに遠いところが指定されているところがある。
- ・もう少し柔軟性を持たせた計画を行うほうが良い。